

**第 30 回日本熱帯生態学会年次大会プログラム
(オンライン国際カンフェレンス)**

Program

The 30th Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology

(Online International Conference)

日時: 2020 年 11 月 21 日(土)

Date: November 21 (Sat) 2020

ポスター発表セッション
 (2020年11月20日～22日12:00まで展示)
 Poster Presentation Session
 (Exhibited from November 20 to 22, 2020, 12:00)

番号 No.	コアタイム 2020年11月21日(土) 13:00～14:00 Core Time November 21 (Sat) 2020 13:00～14:00
P01	森大喜ら 森林における新たな土壌酵素の起源を提案: 林冠から林内雨を通じて土壌へ
P02	竹内やよいら 熱帯樹木 <i>Shorea laxa</i> における近交弱勢の評価
P03	奥野 聖也ら ボルネオ熱帯雨林樹木の種分化速度とニッチ多様化速度の関係
P04	中井広樹ら ボルネオ島におけるカキノキ属の種分化とニッチ多様化
P05	宮本和樹ら The 2015～2016 El Nino-induced drought effects on aboveground biomass under different elevations and soil environments in Borneo
P06	Md. Kamruzzaman et al. Phenological traits and litterfall production of major three species in the Sundarbans
P07	山崎海都ら ラオス南部ボラベン台地における標高傾度に沿った樹木種の種多様性パターン
P08	小林夏子 ラオス北部農山村におけるREDD+事業が異なる民族の生業に与えた影響
P09	安藤和雄 熱帯と日本の農村、農業問題の共時性をヒントにした日本の都市農業における実践研究
P10	Joseph Percival et al. Mapping 20 years of dry forest loss in northwestern Madagascar
P11	Fitta Setiajiati The controversial kratom (<i>Mitragyna speciosa</i>): is it feasible to be cultivated in Kapuas Hulu District, Indonesia?

番号 P09

熱帯と日本の農村、農業問題の共時性をヒントにした日本の都市農業における実践研究

安藤和雄

地域研究において、近年、明確な潮流が生まれている。日本と海外の個別地域で起きている過疎、農業離れや自然災害などをグローバル問題として位置づけ、共時的に捉えようとする試みである。異なる地域の人々が共時性を入り口として直観的に解決の糸口を探り、互いの問題への対応を通時的な視点から比較分析し具体的な実践を模索する。海外をフィールドとしてきた地域研究だからこそ可能となった研究手法である。この研究手法を取り入れ、私は実践型地域研究を展開してきた。2020年3月の定年退職を機会に、実家で兼業の都市農家の生活を私は始めた。栽培面積は稲作が約25a、野菜が約10aで南アジアや東南アジアの小農規模である。私は稲作を任された。7月から地元農協の組合員となり地元農協が10日間隔で開催している朝市にも出店している。都市農業の実践に身を置き私自身が反芻したのは、南アジアや東南アジアでの農村開発実践、農業農村調査を通じて得た小農の暮らしや彼らの技術、村の定期市に関する経験や見聞であった。日本の過疎や農業離れの問題に対して、私は京都府や滋賀県での問題に直接的に関わり、大学でも講義した。そして、この10年来、都市住民の農村や農業に関する関心の低さ、実感のなさを痛感するようになった。日本では、農村との直接的関係を持たない都市住民が多数派をしめるに至っている。この多数派が農村、農業の存在を実感することが、日本の過疎、農業離れには重要で、そのためには彼らにもっとも身近な都市農業が糸口となるという思いを抱くようになった。そのヒントになったのがバングラデシュ、ラオスなどでの田畑の位置づけであり、そこに生えている雑草の利用であった。私は食用雑草をラオスの例にならって朝市で売ってみた。本報告は、熱帯の農村での学びをヒントにした、私が実践した都市農業の再評価の糸口を探る実践型地域研究に関する記録ノートである。

熱帯と日本の農村、農業問題の共時性をヒントにした 日本の都市農業における実践研究

安藤和雄(京大学東南所/名大大学院生命農学研究科)

Key Words: 共時性、通時性、グローバル問題群、当事者意識

1. 地域研究の新しい潮流: グローバル問題群に対応する地域研究

グローバル問題群と在地の関係
(一にして多、多にして一)

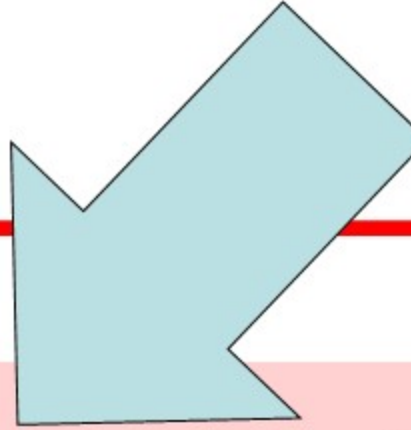
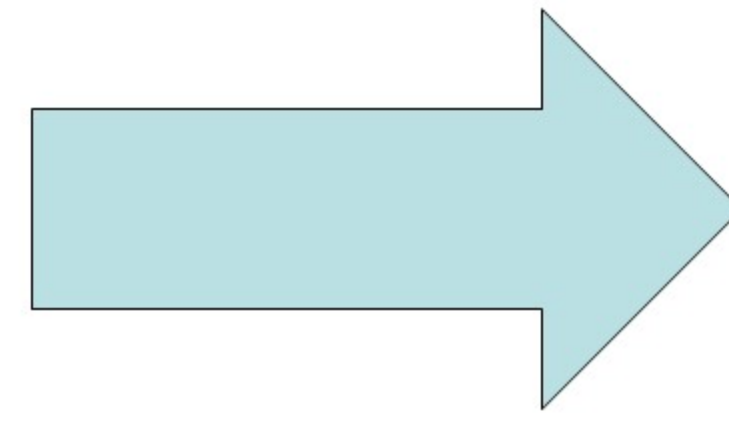
共時性: 意味のある偶然

通時性: 関連数負数の現象
や体系を時間の流れ
や歴史的な変化に沿って
記述する

・グローバル問題群への共時性がつくる**当事者意識の共有**

・通時性の比較がつくる**行動へのヒントと自覚**

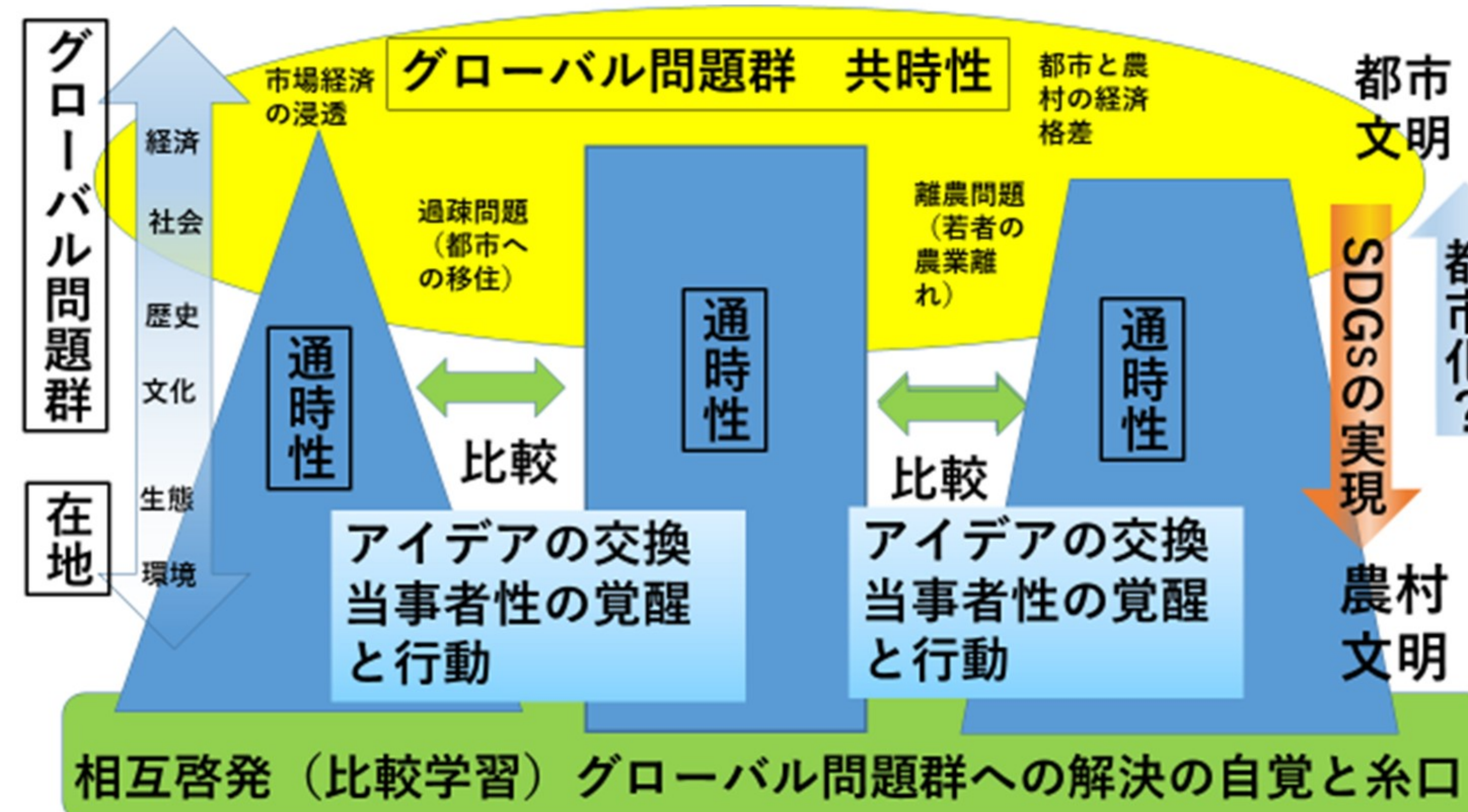
グローバル問題群は世界の在り間で共時的に認識され、問題群の出現の経緯は個別の在りで通時的である。



問題への当事者意識をもった研究者の問題解決への行動(実践)から始まる「グローバル地域研究」

研究対象地の問題はグローバル問題という設定は、研究者を「問題解決から逃がさない」「対象の客観的分析から対象から主体的に学ぶ研究」への意識改革

Humanityを基礎とする実践応用学としての地域研究・熱帯研究



2. 日本(アジア)の都市住民は農業、農村の現状から隔離されている?

大学の過疎と離農をテーマにした講義で愕然とする

・私の講義を受講していた学部生の都会出身の9割ほどの学生が農村や農業に実感として接した経験がない。
・東南アジアからの留学生(院生)も、ブータン、ミャンマーからの招聘学生や大学教員の状況はほぼ同様だった。

・日本の中山間地での過疎問題は小、中学校の授業で学習しているが、具体的なイメージがあるわけではない

・日本、アジアでも激減する農村人口(図1、図2)

・大多数の都市住民は、過疎、離農の問題の以前に、農業、農家、農村の存在すら実感として知らない。

・過疎、離農の問題を実感として考えることもできない。

図1 日本の農村人口の比率の推移

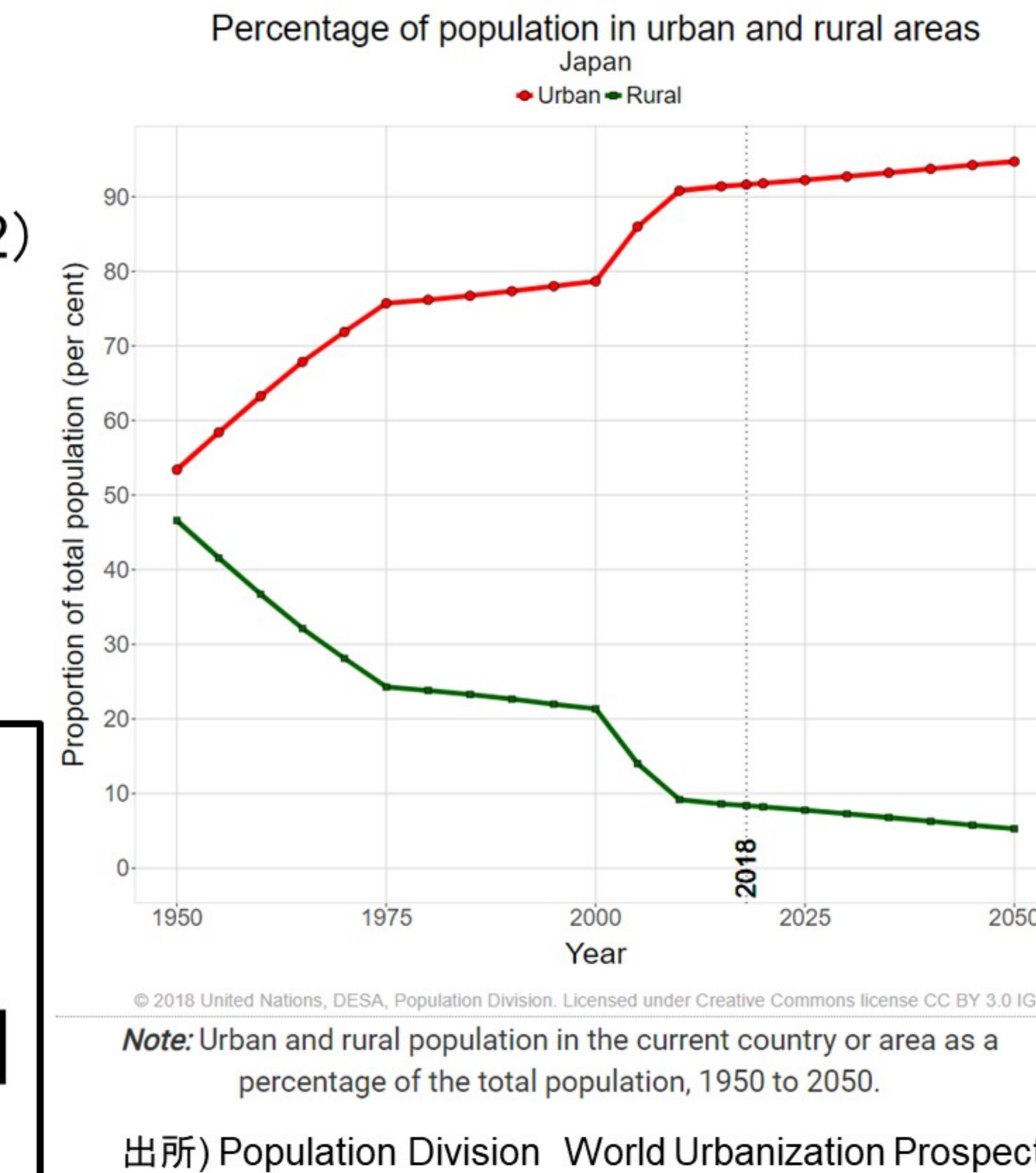
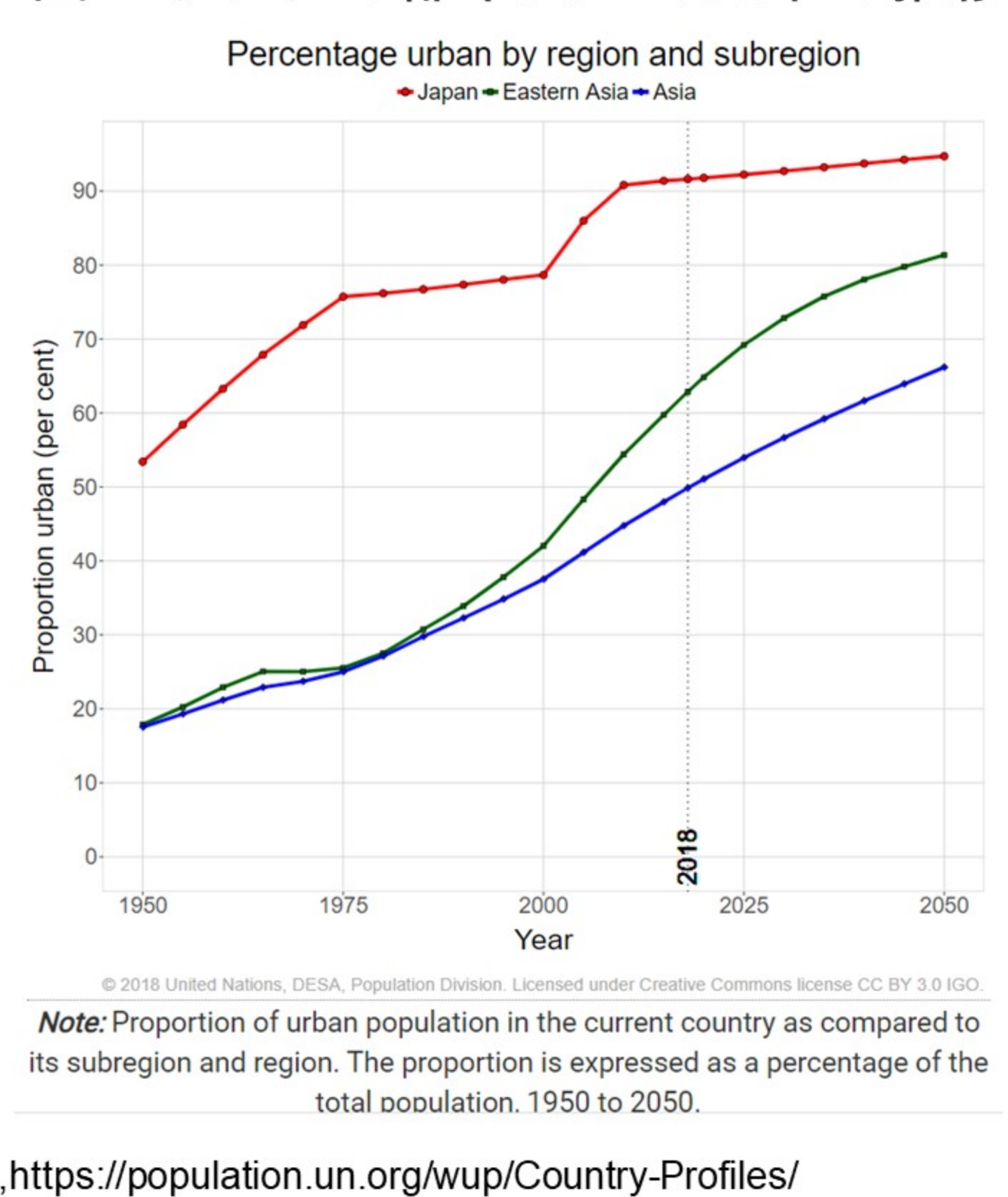


図2 アジアの都市人口の比率の推移



現状は、いかに、日本、アジアの農業、農家、農村の存在を都会の人に知ってもらおうかことから、過疎・離農問題に対する都会の人の当事者的自覚を呼び起こす行動を始める必要がある。

3. 都市農業の役割: 農協の朝市で地元農業の持つグローバル性を伝える

2020年5月: 定年退職して都市農家(兼業農家)の実家に帰る

2020年6月 カルガモのために水田での除草剤の使用中止。

コナギの発生、防除をどうするか?

ネット情報コナギは食べれる

除草剤無使用。コナギが食べられる。コナギを家族で食べる。評判悪くない。

・2020年7月から 農協の朝市への出店依頼を受ける。月に7の日開催。

・新しく自分の在りで都市農業を通じて農業、農村の重要性を都市住民に実感してもらう活動を始めたい

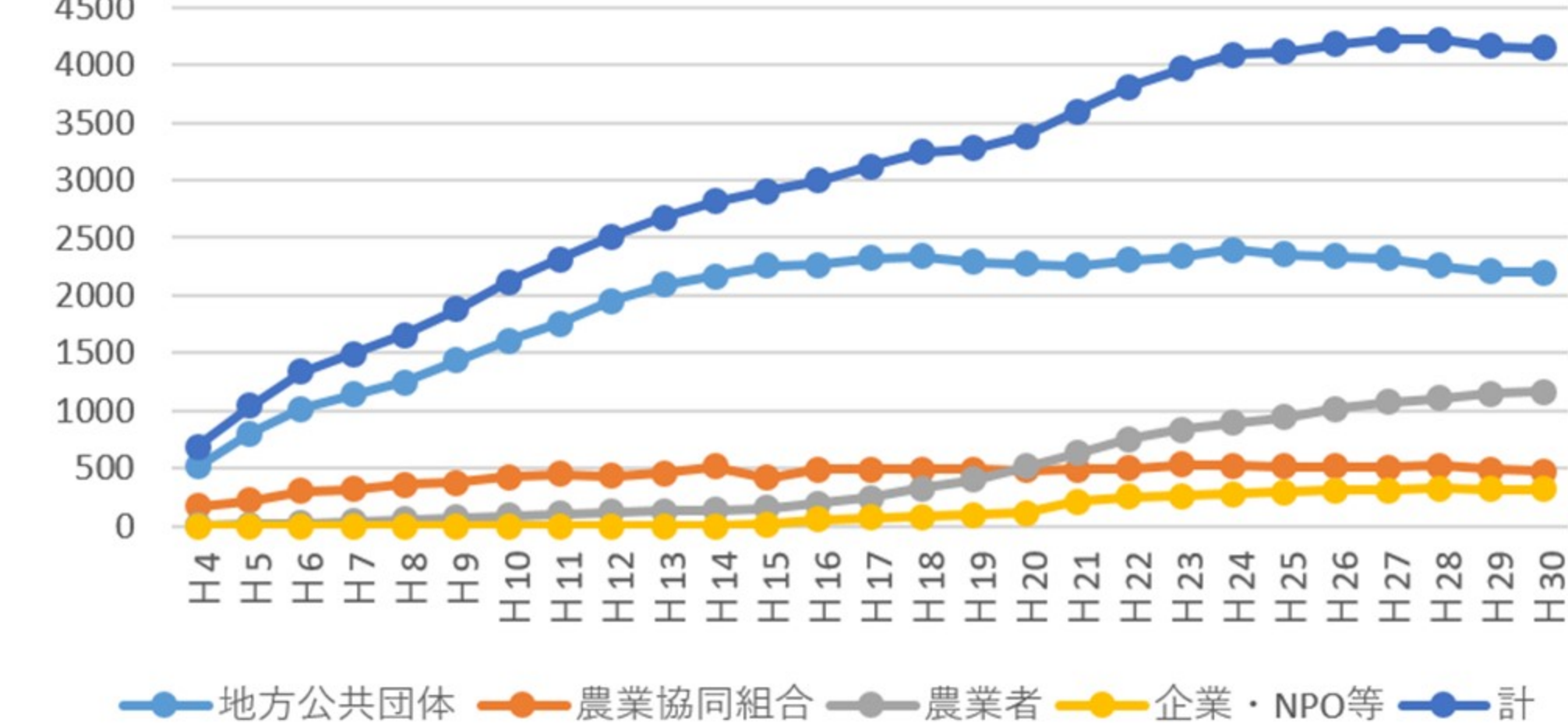
・都市の人々の食の安全意識と近所における市民農園の活況

市民農園の増加(図3)

・安全な野菜の確保(農薬を使わない、有機肥料のみの栽培)

・都市住民の野菜栽培の興味の増加

図3日本国内の主体別市民農園の経年的変化



出所) 農林水産省「市民農園の状況」
https://www.maff.go.jp/j/housin/kouryu/tosi_nougyo/s_joukyou.html

地元(在り)の都市住民に農業の楽しさ、面白さを実感としてわかってもらえるインパクトのある「野菜」を販売したい。グローバルな視点を出す。

・安全な野菜(減農薬、減化学肥料)の販売を目指す
・地元栽培野菜の消費が安全な環境をつくる(地元農業の役割)

ラオスのサバナケート(ケンコク)の定期市での調査経験

雑草、カエル、ネズミなど身近な「資源」を青空市場で売っていた。タマサート(自然に沿った)ラオスの村人たちの生き方が大変よく表れていた。

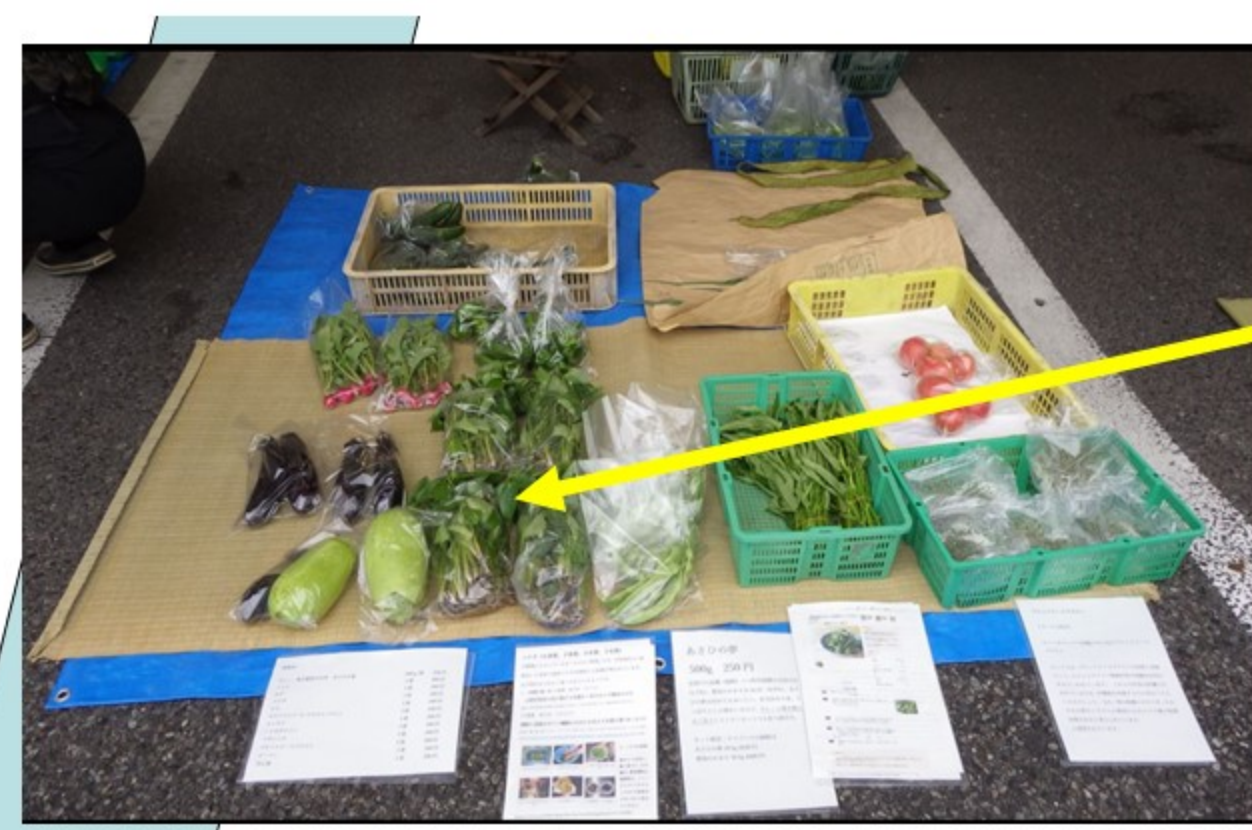


2001年7月ラオス・ケンコクの青空市とそこで販売されていた雑草。



オオバコ科シソ科属 *Limnophila geoffrayi* ラオ語名「パック・カニエン」ラオスではビエンチャン以南の水田に生える雑草、茎と葉にシソのような芳香があり、タケノコスープの香り付けに利用(京大大学院ASAFAS小坂康之氏のご教示)。

コナギを「野菜」として朝市で売ってみよう!



2020年7月17日の朝市の店

販売時の説明

共時性の視点

・ベトナム、タイ、ラオスでは市場で「野菜」として販売されている。バングラデシュでは自家用野菜として時々食べられている。

通時性の視点

・天平六年(734年)の文書から当時はコナギは日本で栽培されていたことが記録されている。万葉集、延喜式にも記録あり、江戸時代までは栽培されていたが、明治以降栽培なくなる。青葉高2013「日本の野菜文化史辞典」:409-411)



2020年7月12日コナギ

コナギ1袋100円
5袋づつ販売する。

バイアスをいかに打ち破るか!

消費者の反応

そろそろ終わりコナギ(小葉葱、子葉葱、小水葱、子水葱)のシーズン。万葉集にも載っている古くからの「野菜」です。平安時代の「延喜式」に水田で食用コナギを栽培した記録が残っています。江戸時代まではよく食べられていたようです。

1. 万葉集の歌二首 [万葉集 巻十四 3415]
上野伊香保の沼に植る子水葱かく恋ひむとや種求めけむ [万葉集 巻十四 3829]
眞酢に毒鍋き合てて御願ふわれに見えそ水葱の葉(あつもの) [万葉集 巻十四 3829]

2. コナギの料理
水洗いし、十分に茹でて、おき揚げ、香味増強、加味和え、ニンニクとタマネギとこのみで青唐辛子をいれて炒めてください。

2020年8月7日に配ったチラシ
コナギを雑草と知らない都市住民はコナギの共時性、通時性の説明に反応がよかったが、農業経験者などでコナギは水田雑草であることを知っている人は「草でしょう」という不評の反応が大きかった